

【校長通信 5月24日号】

1、緊急事態宣言解除

5月21日について、大阪、兵庫、京都も緊急事態宣言が解除されました。

これによって徐々にではありますが、学校再開に向けて本格的に進んでいくこととなります。しかし、これはあくまでも行政の判断であって、ワクチンが開発されたわけでもなく、根本的な対処法については、まだまだ発展途上です。

以前のような日常生活を取り戻すまでにはまだ相当時間がかかります。

学校としても、「学校での新しい生活様式」について、どこまでの対策を講じればいいのか、手探り状態です。学校での日常生活が、どのような形になるのか、授業、昼食、クラブも含めた放課後の活動、それぞれのあり方について、まだまだ議論が始まったばかり。府のガイドラインもまだまだアバウトです。あらゆる面で試行錯誤が当分続くと思われまふ。誰もが経験したことがない、正解のない問いについて立ち向かっているわけですから仕方ありません。走りながら考えていきたいと思ひます。保護者の皆様方にもご理解、ご協力のほどよろしくお願ひします。少しでもより良い方向に向かつて、生徒、保護者、教職員がしっかり力を合わせて取り組んでいきたいと思ひます。

学校の使命の中の一つは「社会で生き抜くための、いわば武器を教える」ことだと思ひています。では社会を生き抜くための武器って何でしょうか？資格、コミュニケーション力、学歴、英会話力、パソコンに精通している、雑学力、ヒューマンネットワーク力等々、数え上げたらきりがないうろいろあると思ひます。時代、国、職業、職場が違えば、武器の概念も違ってくるでしょう。コロナ禍の下、目には見えないけれど、この苦難に立ち向かい、受け入れることによって、生徒一人ひとりが社会を生き抜くための武器を自ら体得してくれていると信じています。

君が失ったものが多いのは確かです。まだまだ立ち直れないかもしれません。時間がかかるかもしれません。君が立ち直れるよう周囲の大人は君をしっかり見守ります。こういう時期だからこそ、私は、失ったもの以上に得たものがあると信じてたい。

こういう時期だからこそ、まずは苦難を受け入れる。やるべきことに真摯に向き合う。そして、この経験を負の遺産とせず、(もちろん時間はかかります)プラスに変えていこうと努力をする。君がそうであってほしいと校長として切に切に願っています。

仲間がいる、家族がいる、先生がいる、クラブの指導者がいる。多くの人が君を支えています。それだけは覚えておいてください。

「三密を避ける、丁寧な手洗い・うがい、マスクは必ず着用(咳エチケット)、ソーシャルディスタンスを取る」等、新しい生活様式については、私たちが考え、実行していかなければなりません。

前回にも書きましたが、自分の状況、行動を「客観的な眼を持って見つめる」ということを心がけてください。「自分の身は自分で守る！」あくまで自己責任です。

2、「津波てんでんこ」～東北の言い伝えから

吹奏楽部と一緒に、東北の陸前高田、大船渡を中心に東日本大震災の復興支援に行ったときに聞いた話を紹介します。「津波てんでんこ」という東北地方の言い伝えのことです。

東北地方では、有史以来東日本大震災のような大震災そして、津波被害を何度も受けています。そのたびにたくさんの人命が失われてきたというのは、皆さまご存じの通りです。「津波てんでんこ」とは、過去のこのような経験から、「津波が来たら、取るものも取り敢えず、親、兄妹等の肉親にもかまわないで、自分の意志で、てんでばらばらに高台に逃げろ！」ということなのです。別の言い方をすれば、「自分のいのちは自分でしか守れない」ということです。

初めてこの話を聞いた時、当たり前のことなのだけれど、なんとも言えないせつない気分になりました。

しかし、考えてみれば、①自分のいのちは自分で守る ②自分が大声を出して高台に逃げていくことで、周囲の人間にもただ事ではないということを知らせることができる ③有事の時は「各自、てんでばらばらに逃げよう」という行動原則を確認しあうことで無駄な動きをせず、周囲と信頼関係を築いておくことができる

④もし万が一、津波で大切な人を失ったとしても、何もできなかった自分自身を責めるという罪悪感を少しはやわらげることができるという意味があるのだそうです。

繰り返し襲ってくる自然の猛威に対して、ちっぽけな人間がどのように考え、対応してきたかということを教えてくれています。

今回のコロナ禍の下、4月当初、学校の運営方針の決断を迫られた時、最初にアタマに浮かんだのは、この「津波てんでんこ」の言い伝えでした。

急激に世の中は動き始めています。変化してきています。

周囲の動きが活発になってきて、なんとなく気ぜわしく感じるのは私だけでしょうか。ワクチンやコロナに対処する薬がまだ開発されていない以上、第二波、第三波はきつと襲ってくるでしょう。私たちは覚悟せねばなりません。できる限りの情報を得て、これまで解明されてきた事実を踏まえ、自分の考えで行動する、「自分のいのちに自分で責任を持つ」。再度、「津波てんでんこ」の教え、確認したいと思います。

コロナ防止対策、「自分の行動、これでいい？」客観的に自分を見る眼を携えて。

しぶとく生きよう！ コロナに負けるな！ 「元気、勇気、笑顔」、常に前向き！

箕面自由学園中学校高等学校

校長 田中 良樹

PS 急に暑くなってきました。気温の変動も激しいです。体調管理に気を付けて。そろそろ、早起きをしなさいよ。